

# 型破りトランプ氏 日本にチャンス

Market  
Eye

日興アセットマネジメント アメリカズ・インク  
チーフ・グローバル・ストラテジスト

## ジョン・ヴェイル氏



競争からも守りたい考えだ。

日本に関しては、トランプ氏の勝利があつれきをもたらすとは思えない。幸い安倍政権は、公正な貿易と責任分担に基づく関係強化にすばやく動いた。米国のアジア戦略における日本の重要性を維持するためにも、日本企業はこの流れに乗って新たな通商関係を築く必要がある。

トランプ氏の主たる標的は言うまでもなく中国とメキシコでの製造だが、日本にも率先してできることはある。日本国内での製造縮小は必要ないが、他国の製造拠点を米国に移すことは考えてもよいだろう。米国内の既存の製造工場の拡大や米製造業への出資・関係強化もよい選択肢となり得る。

日本企業がこの方向に動けば優位に立てるはずで、日本政府、とくに経産省にはその手助けができるだろう。北米自由貿易協定（NAFTA）が再交渉に至ったり、中国製品に高関税がかけられたりすれば、製造拠点を米国に置く企業には有利になる。

日本はこうした新しい現実に適応し、次期大統領の構想を阻むのではなく、「取引」をする態勢を整えることが望ましい。たとえば、米国製品の輸入拡大を要求された場合、他国製に代えて米国製を選ぶ余地のある品目を検討する、この方針転換に米国の多国籍企業を活用する、日本の米国向け輸出品のうち利益が小さく輸出を断念して差し支えない品目を選別する、などが考えられる。

最後に、新政権で元軍人が多いのは日本にとってよい兆候だ。彼らは全員、日本の重要性と中国の脅威を理解している。また彼らの多くが環太平洋経済連携協定（TPP）を支持している。型破りは日本の得意とするところではないかもしれないが、以上のように適切な方針と迅速な行動をもってすれば、日本は新しい現実から利益を引き出せるだろう。

日本の文化では、予測不能で乱暴なやり方は好まれない。次期米大統領のトランプ氏は、よく知っている人から見れば決して予測不能ではないが、乱暴な話しぶりはたしかにそうかもしれない。彼はまちがいがなく型破りで、何かと物議をかました破天荒な第26代大統領「テディ、セオドア・ルーズベルト（共和党出身、在任期間1901～09年）に多くの点で似ている。

テディは大企業嫌いで自由市場を支持するポピュリスト政治家だった。独占を排除し、エリート集団の権力を取り上げて、大統領職の数々の伝統を打ち破った。すべて、経済の自由化や物価の抑制、「エリートでないふつうの人」の雇用拡大が目的である。

どんな比喻も完璧ではないものだが、投資家はトランプ次期大統領が、こと大企業と国際貿易に関する限り、自由放任を嫌うという点でテディに似ていると考えるべきだろう。トランプ氏は、市民と経済を寡占の横暴から守り、また彼に言わせれば不公正な国際貿易

許諾番号30052754 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。